

# 都市再生整備計画

ふじさわ ちく  
藤沢地区

かながわけん ふじさわし  
神奈川県 藤沢市

平成23年3月

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

|       |                     |      |                     |     |      |    |        |
|-------|---------------------|------|---------------------|-----|------|----|--------|
| 都道府県名 | 神奈川県                | 市町村名 | 藤沢市                 | 地区名 | 藤沢地区 | 面積 | 350 ha |
| 計画期間  | 平成 19 年度 ~ 平成 23 年度 | 交付期間 | 平成 19 年度 ~ 平成 23 年度 |     |      |    |        |

|                  |                             |
|------------------|-----------------------------|
| 目標               |                             |
| 「賑わいのある中心市街地の再生」 |                             |
| 目標1              | 活力ある中心市街地の形成                |
| 目標2              | 防災機能が高く安全で安心して暮らせる魅力的なまちづくり |
| 目標3              |                             |

|   |
|---|
| 目標設定の根拠   |
| <p>まちづくりの経緯及び現況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市「藤沢」の生成は中世期、時宗総本山遊行寺門前町を起源に、江戸期の宿場町に至り遊行寺門前帯を中心に市街地が形成されました。</li> <li>・明治後期から昭和初期に至る間、市街地から約1km南の現在地に国鉄、江ノ電、小田急各線の「藤沢駅」が開業し、駅方向に向けて市街地外延化が進行する一方、交通結節点としての駅前へ求心力が高まり、とりわけ、市街地中心への玄関となる北口地区への商業等都市機能立地が進み新たな都市拠点が形成されました。</li> <li>・更に都市機能の充実を図るべく、都市施設の整備と、市民生活の拠点整備とを目的に昭和50年～昭和54年にかけて藤沢駅北口市街地再開発事業が行われました。</li> <li>・藤沢駅北口市街地再開発事業は、北は藤沢村岡線までの範囲(約2ha)にとどまったことにより、藤沢村岡線以北の後背地区は再開発区域内から派生する諸機能を受け入れ一体となって都市機能を発揮する土地利用に耐える都市基盤施設が不足のまま今日まで推移し、平面駐車場等低利用のまま、商業地である特性が活かされていない状況です。</li> <li>・また、マイカーの利用増や地区の集中型の道路事情とあいまって、道路交通の効率の悪化と自動車のふくそうによる歩行者の危険性が増している状況です。</li> <li>・これらの諸問題を解決すべく、藤沢北口駅前地区について、平成17年度、権利者や周辺自治会、商業者代表で構成された「藤沢北口駅前地区まちづくり検討会」を発足させ、検討会での意見、提案を基に、本地区のあるべき姿を、藤沢北口駅前地区整備計画として取りまとめました。</li> <li>・一方、その周辺地区の大部分は古くからの自然発生的な街並みからなっており、生活道路や街区公園などの身近な生活基盤の整備が遅れ、まちにうるおいを与える緑地も年々減少している状況です。</li> </ul> |

|  |
|--|
| 課題   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・藤沢駅北口周辺については、駅直近の商業地にもかかわらず平面駐車場等低未利用地化しており土地利用の機能更新が最重要課題です。</li> <li>・さらには、大型店の郊外立地により駅周辺商店街への来街回数が減少し、滞在性・買回り性が弱くなっており、駅周辺商店街の活性化が求められています。</li> <li>・駅周辺地区のバリアフリー化を図ることにより、安全で快適な歩行者動線を確保し、連続的な歩行者空間ネットワークを構築することにより、自転車、歩行者の安全性を図る必要があります。</li> <li>・市街地である藤沢地区にとって緑地は貴重であり宅地開発等で減少する緑地の保全を図る必要があります。</li> <li>・地区の避難施設である小中学校や、消防防災体制の拠点基地である消防分団待機宿舎の耐震化、緊急避難路での橋梁の落下防止及びまちなかのオープンスペースを確保することによりまちの防災性の向上を図る必要があります。</li> <li>・準用河川滝川及び白旗川を早期に河川改修を行うことにより、住民の生命、財産を守り安全性の確保を図る必要があります。</li> <li>・藤沢駅北口周辺の観光及び商業の活性化のため、その核となるべく「遊行寺」の文化や観光資源を活かす方策の検討が必要です。</li> </ul> |

|  |
|--|
| 将来ビジョン(中長期)  |
| <p>(都市マスタープラン)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「古くからあるにぎわいと、住みごこちを大切にしたい、歩いてたのしいまち」を地区の将来像とし、「人と車が共存する地域交通」、「くらしに息づくみどりや公園」、「安全安心にくらせる地域」、「すみよい住宅地の保全」という4つをまちづくりのテーマとして位置づけています。</li> <li>(総合計画)</li> <li>・藤沢駅周辺地区は、都市拠点の機能強化と活性化の支援を図り、地区全体としては、地区別まちづくりの推進を基本に、災害に強い都市構造の構築、多様な動植物環境の保全、さらには緑のネットワーク空間の整備、消防・救急体制、学校教育施設の整備が位置づけられています。</li> <li>(その他)</li> <li>・藤沢駅周辺地区では、交通バリアフリー法に基づき「藤沢市移動円滑化基本構想」を策定し、バリアフリー化を進めています。</li> </ul> |

| 目標を定量化する指標             |     |  |   |        |        |         |        |
|------------------------|-----|--|---|--------|--------|---------|--------|
| 指 標                    | 単 位 | 定 義  | 目標と指標及び目標値の関連性                                    | 従前値    | 基準年度   | 目標値     | 目標年度   |
|                        |     |  |   |        |        |         |        |
| 来街者数                   | 人/日 | 藤沢駅北口地区への来街者数  | 北口駅前の賑わいを目指し、歩行者交通量1万人/日の増加を見込む。                  | 95,869 | 平成14年度 | 105,869 | 平成23年度 |
| 浸水区域の縮小                | ha  | 区域内で発生した浸水被害面積   | 河川改修事業により浸水被害面積を3割減とし、防災機能が高いまちづくりを進める。           | 29.5   | 平成16年度 | 21      | 平成23年度 |
| 地震・風水害に強い都市満足度         | 順位  | 藤沢市の各行政施策(72項目)についての市民満足度調査(単純無作為抽出アンケートによる)において、藤沢地区における「地震・風水害に強い都市づくり」の施策満足度の順位(72位中) | 安全で安心して暮らせるまちを目指し避難施設等の耐震化を図り、災害に対する市民の安心度を向上させる。 | 47     | 平成17年度 | 25      | 平成23年度 |
| 藤沢駅周辺の交通の便利さや活気に対する満足度 | 順位  | 藤沢市の各行政施策(72項目)についての市民満足度調査(単純無作為抽出アンケートによる)において、「藤沢駅周辺の交通の便利さや活気」の施策満足度の順位(72位中)        | 都市拠点としてふさわしい機能強化や活性化を目指し、交通の便利さや活気に対する満足度を向上させる。  | 33     | 平成17年度 | 10      | 平成23年度 |

都市再生整備計画の整備方針等

| 計画区域の整備方針   | 方針に合致する主要な事業   |
|---|--|
| <p><b>整備方針 1（活力ある中心市街地の形成）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区のポテンシャル高め、かつ駅から人(賑わい)をもたらし、地区内外の活動や暮らしを有機的に結びつけるため、駅前から地区内に人を引き込む南北方向の動線、及び周辺市街地や商店街(藤沢銀座、遊行通り)とのつながりをもたらす東西方向の動線をネットワークさせ、駅～地区～周辺商店街という新たな人の回遊(流れ)を生み出すことにより、北口地域の賑わいの再生を図ります。</li> <li>・駅南口の駐輪需要に対応するため、既存自転車駐輪場の再整備(拡充)を行うことにより、歩道上への違法駐輪をなくし、駅周辺での快適な歩行者動線の確保を目指します。</li> <li>・藤沢駅北口周辺の観光及び商業の活性化のため、地区の核となるべく「遊行寺」の文化や観光資源を活かすことを目的とした、商工会議所が実施するイベント事業及び観光客用に設置する便所の整備に支援を行います。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基幹事業：道路事業(藤沢駅北口通り線、藤沢駅北口東西線、藤沢駅北口東西歩行者専用道路、市道藤沢83号線)</li> <li>・基幹事業：地域生活基盤施設事業(藤沢駅南口自転車駐輪場)</li> <li>・提案事業：地域創造支援事業(遊行寺便所整備・イベント)</li> <li>・関連事業：(市)特定交通安全施設等整備事業(藤沢地区)</li> <li>・関連事業：(市)特定交通安全施設等整備事業(藤沢本町地区)</li> <li>・関連事業：(市)地域資源活用推進事業(遊行寺イベント)</li> </ul>   |
| <p><b>整備方針 2（防災機能が強く安全で安心して暮らせる魅力的なまちづくり）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・藤沢北口駅前地区及びその以西隣接地区の救助・避難動線機能を備えた、安全安心コミュニティロードとして整備します。</li> <li>・藤沢市の都心であり来街者等が集中している藤沢駅南北広場の耐震補強を行うことにより、災害時の人的被害を未然に防ぐとともに、交通結節点機能の安全性の確保を図ります。</li> <li>・緊急輸送路に指定されている国道467号に掛かる橋梁の落橋防止対策を行うことにより災害時の避難路の確保を図ります。</li> <li>・浸水被害が発生している滝川・白旗川の改修を行い、流域住民の生活及び財産を守り安全性の確保を図ると共に河川環境の整備を図ります。</li> <li>・市民に最も身近な公園、緑地として潤いと安らぎを与える緑の空間を整備するとともに、災害時における一時避難場所としてのオープンスペースの確保を図ります。</li> <li>・藤沢市地域防災計画に避難施設として位置づけられている屋内運動場の耐震補強を実施することにより災害時の市民の安全確保を図ります。</li> <li>・藤沢市地域防災計画の「非常用100トン水槽設置計画」に基づき、耐震性貯水槽を整備することにより、災害時の飲料水確保に努め地域の防災力向上を図ります。</li> <li>・地域に身近な消防防災体制の拠点基地である消防分団待機宿舎を耐震、耐火性に改築することにより、迅速な消防防災活動及び地域の消防防災力の向上を図ります。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基幹事業：道路事業(藤沢駅北口通り線、藤沢駅北口東西線、市道藤沢83号線)</li> <li>・基幹事業：道路事業(藤沢駅北口広場<sup>ペデストリアンデッキ</sup>・藤沢駅南口広場歩道橋・大正堂歩道橋・市役所前歩道橋)</li> <li>・基幹事業：道路事業(市道藤沢607号線・市道藤沢191号線)</li> <li>・基幹事業：公園事業(西横須賀公園)</li> <li>・基幹事業：河川事業(準用河川白旗川)</li> <li>・基幹事業：地域生活基盤施設事業(本町一丁目緑地・伊勢山緑地)</li> <li>・基幹事業：地域生活基盤施設事業(大道小学校、本町小学校、村岡小学校、村岡中学校屋内運動場)</li> <li>・基幹事業：地域生活基盤施設事業(地域防災施設：藤沢西地区耐震性貯水槽)</li> <li>・基幹事業：高質空間形成施設事業(準用河川滝川)</li> <li>・提案事業：公園ワークショップ事業(西横須賀公園)</li> <li>・関連事業：消防分団待機宿舎改築事業(第6消防分団待機宿舎)</li> <li>・関連事業：総合流域防災事業(滝川)</li> <li>・関連事業：下水道事業(藤沢西部地区)</li> <li>・関連事業：下水道事業(本藤沢7丁目地内)</li> </ul> |
| <p><b>その他</b></p> <p>○藤沢北口駅前地区については、平成17年度、権利者や周辺自治会、商業者代表で構成された「藤沢北口駅前地区まちづくり検討会」を発足させ、検討会での意見、提案を基に本地区のあるべき姿を、「藤沢北口駅前地区整備計画」として取りまとめました。今後は、事業化に向けた権利者組織の立ち上げを図っていきます。</p> <p>○河川環境整備や、公園整備に際しては、ワークショップの実施による市民参加により整備を進めます。</p>   |  |

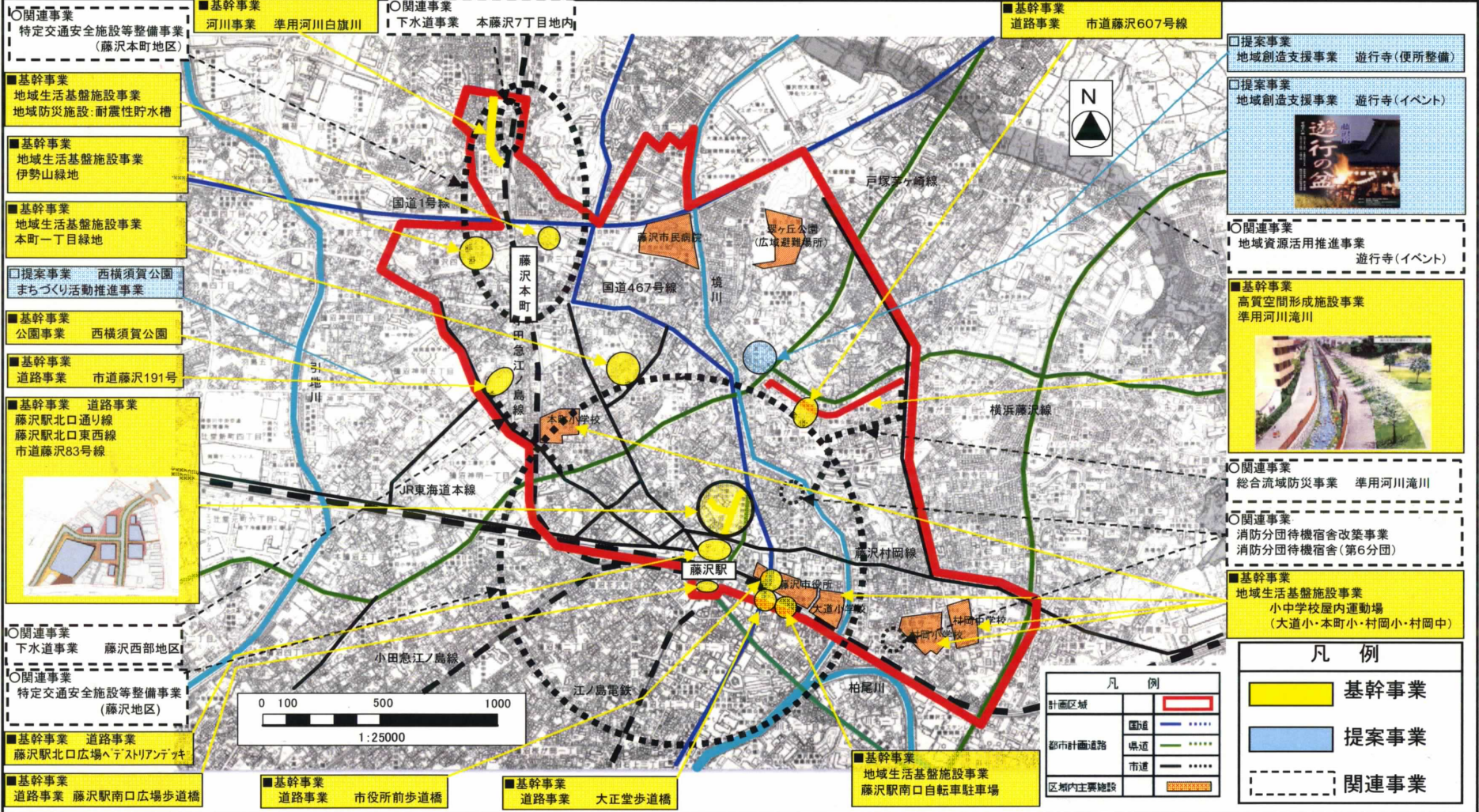






ふじさわ かながわけんふじさわし  
**藤沢地区(神奈川県藤沢市) 整備方針概要図**

|    |                |        |                              |                |   |                 |
|----|----------------|--------|------------------------------|----------------|---|-----------------|
| 目標 | 賑わいのある中心市街地の再生 | 代表的な指標 | 来街者数 (人/日)                   | 95,869 (H14年度) | → | 105,869 (H23年度) |
|    |                |        | 浸水区域の縮小 (ha)                 | 29.5 (H16年度)   | → | 21 (H23年度)      |
|    |                |        | 地震・風水害に強い都市満足度 (位)           | 47 (H17年度)     | → | 25 (H23年度)      |
|    |                |        | 藤沢駅周辺地区の交通の利便さや活気に対する満足度 (位) | 33 (H17年度)     | → | 10 (H23年度)      |



○関連事業  
 特定交通安全施設等整備事業  
 (藤沢本町地区)

■基幹事業  
 河川事業 準用河川白旗川

○関連事業  
 下水道事業 本藤沢7丁目地内

■基幹事業  
 道路事業 市道藤沢607号線

□提案事業  
 地域創造支援事業 遊行寺(便所整備)

□提案事業  
 地域創造支援事業 遊行寺(イベント)



○関連事業  
 地域資源活用推進事業  
 遊行寺(イベント)

■基幹事業  
 高質空間形成施設事業  
 準用河川滝川



○関連事業  
 総合流域防災事業 準用河川滝川

○関連事業  
 消防分団待機舎改築事業  
 消防分団待機舎(第6分団)

■基幹事業  
 地域生活基盤施設事業  
 小中学校屋内運動場  
 (大道小・本町小・村岡小・村岡中)

■基幹事業  
 地域生活基盤施設事業  
 地域防災施設:耐震性貯水槽

■基幹事業  
 地域生活基盤施設事業  
 伊勢山緑地

■基幹事業  
 地域生活基盤施設事業  
 本町一丁目緑地

□提案事業  
 西横須賀公園  
 まちづくり活動推進事業

■基幹事業  
 公園事業 西横須賀公園

■基幹事業  
 道路事業 市道藤沢191号

■基幹事業 道路事業  
 藤沢駅北口通り線  
 藤沢駅北口東西線  
 市道藤沢83号線



○関連事業  
 下水道事業 藤沢西部地区

○関連事業  
 特定交通安全施設等整備事業  
 (藤沢地区)

■基幹事業 道路事業  
 藤沢駅北口広場ヘストリアンデッキ

■基幹事業  
 道路事業 藤沢駅南口広場歩道橋

■基幹事業  
 道路事業 市役所前歩道橋

■基幹事業  
 道路事業 大正堂歩道橋

■基幹事業  
 道路事業 大正堂歩道橋

■基幹事業  
 地域生活基盤施設事業  
 藤沢駅南口自転車駐車場

参考

事前評価資料

# 社会資本整備総合交付金チェックシート

(都市再生整備計画事業等タイプ)

計画の名称: 藤沢地区都市再生整備計画 事業主体名: 藤沢市

チェック欄

| I. 目標の妥当性                         |   |
|-----------------------------------|---|
| ①都市再生基本方針との適合等                    |   |
| 1)まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。       | ○ |
| 2)上位計画等と整合性が確保されている。              | ○ |
| ②地域の課題への対応                        |   |
| 1)地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。     | ○ |
| 2)まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い      | ○ |
| II. 計画の効果・効率性                     |   |
| ③目標と事業内容の整合性等                     |   |
| 1)目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。         | ○ |
| 2)指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。       | ○ |
| 3)目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。     | ○ |
| 4)指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。   | ○ |
| 5)地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。    | ○ |
| ④事業の効果                            |   |
| 1)十分な事業効果が確認されている。                | ○ |
| 2)事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。 | ○ |
| III. 計画の実現可能性                     |   |
| ⑤地元の熱意                            |   |
| 1)まちづくりに向けた機運がある。                 | ○ |
| 2)住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。        | ○ |
| 3)継続的なまちづくりの展開が見込まれる。             | ○ |
| ⑥円滑な事業執行の環境                       |   |
| 1)計画の具体性など、事業の熟度が高い。              | ○ |
| 2)交付期間中の計画管理(モニタリング)を実施する予定である。   | ○ |
| 3)計画について住民等との間で合意が形成されている。        | ○ |